

山口町 石場建ての家

木造 伝統構法 2 階建て住宅

敷地面積 339.97 m² 建築面積 92.26 m² 延床面積 101.59 m²

施工時期 2024 年 5 月～2025 年 3 月

・概要・

兵庫県西宮市の六甲山北側に位置する自然豊かな地域。建築場所は幹線道路から一步入った位置にあり、古い民家や農地が多く残っている。元々は土地購入時に建っていた昭和後期の民家を改修する案もあったが、過去の改修等による傷みも大きい為、間もなく新築計画へとシフトした経緯がある。新築計画も施主希望である田の字民家型を引き継いだ。

・仕様・

施工請負いは伝統構法の修行をしてきた大工なので、天然乾燥材・手刻み・真壁・土壁仕様にする事は自動的に決定となる。

建物計画と同時に始まったのが施主自らの竹小舞い用の割竹作り。ここまでの時点で建築士はほぼ関与しておらず、大工主導での木材と左官に触れる勉強からのスタート。その後の建築中には一棟分全ての外壁焼き板も作った。

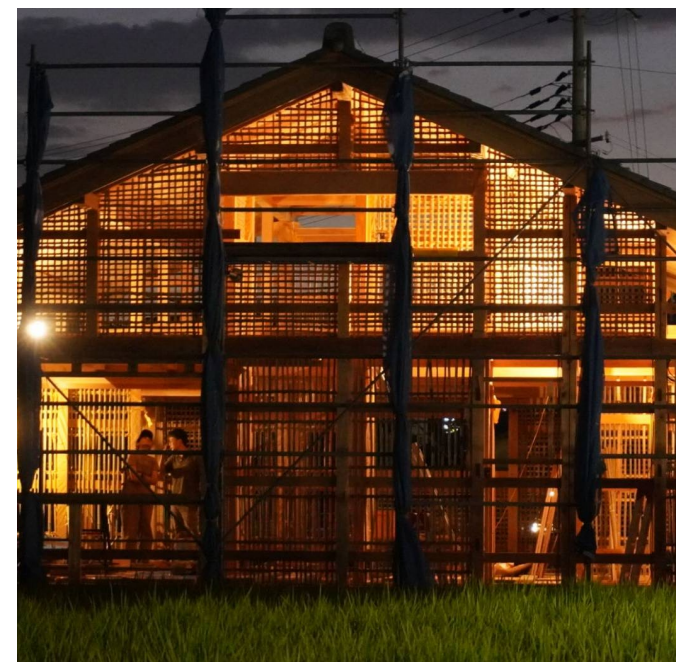
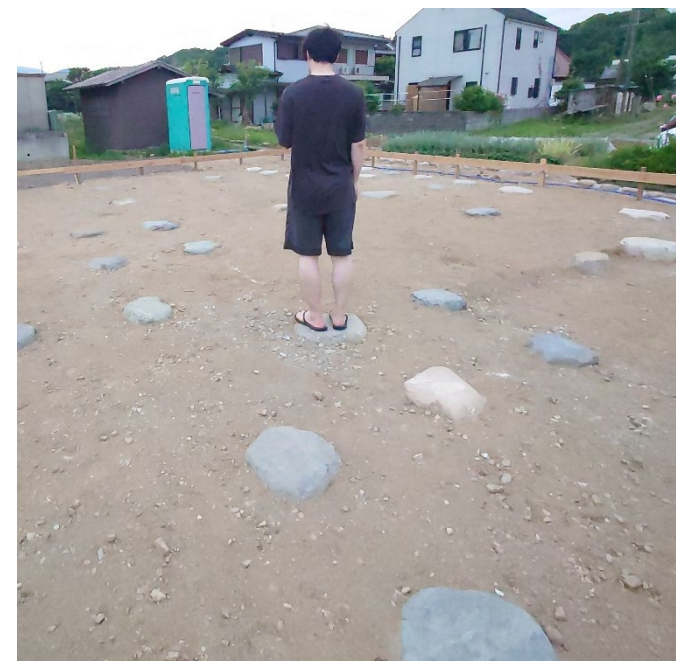
また、計画は未決定でも天然乾燥材を使用するには早い時期から構造材集めも始まる。使用木材の殆どは大工が大学生時代から縁がある京北産である。工場の立地も京都府との県境にあり、普段からの付き合いの中で求める材料の好みや等級を把握し合う関係性がある。

・挑戦・

計画を進める中で初めての挑戦となったのが、準防火地域での積極的な木材利用と石場建て。

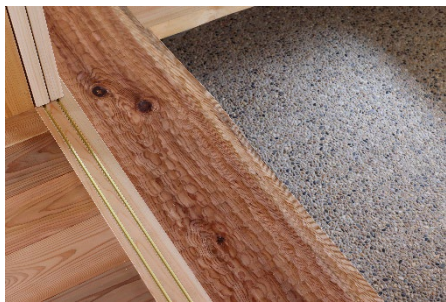
これまで関わった仕事から感じる石場建て古民家の足元メンテナンス性の良さ、昨今の急激な資材高騰、良好な地盤、様々な要素からコンクリート基礎ではなく自然石を選択する条件が揃った。これについては 大工の強い意志と柔軟性・建築士との意志共有・施主の理解 が揃い実現した。

結果として木材以外に礎石や竹も近隣地域から集めることとなり、家づくりが施主にとって身近な行為となっていれば。と願う。





南側の開口部は延焼ラインから外し木製建具を製作した。北側は幹線道路が近く騒がしい。



名栗式台は施主リクエストに応じて棟梁が数日間の練習。キッチン等の造作も大工作。



浴室を除いて、仕上げは杉・桧と左官屋オリジナル配合の砂漆喰壁。床・天井（化粧野地・荒野地）共に 30 mm 杉板を使用し、下地合板はゼロ。

